



2週間の飛び石連休が終わりました。園生活のリズムが崩れてしまっているのではないかと思っていたのですが、心配は無用でした。

年長児は、自分たちの鯉のぼりにうろこを縫い付ける作業に入り、少しドキドキしながらも真剣な表情で取り組む姿に年長児らしい落ち着きを感じます。連休中に体験した出来事を、朝の集まりの時間に担任や友だちに話したり聞いたりした後は、気持ちを園の生活に【切り替えて】、途中だった鯉のぼり作りを始めたり、「こいのぼり当番（今は昨年度の年長児が制作した鯉のぼりを揚げ降ろしする仕事）」に加えて「小鳥・かも当番」も始めました。意気揚々と仕事をしている姿に年長児の成長を感じます。この姿が、いずれ学校生活での授業と休み時間の切り替えに繋がっていくことでしょう。

年中・年少児も元気に登園してきました。けれど、年長児の多くの子どもが昨日の続きのように園生活を始めているのに対して、年中・年少児は年長児のように切り替えられず、取り戻すのに少し時間がかかるようです。この姿は発達段階において当然のことで、心配することではありません。

次（新しいこと）に向かう時、これまでに体験したことに気持ちがたくさん残っていて、今の状況と過去の出来事を重ねることがよくありますが、これは混乱している訳ではありません。言い換えると、【時間の流れよりも気持ちの流れ（変化）がゆっくり】なのです。例えば、刺激的なことを体験した後、なかなか興奮状態が収まらなかったり、休み明けの朝、靴箱の前に座り込んでなかなか動き出さなかったり、着替えをする手がじっと止まったり……。このような次への行動に気持ちが付いていかない姿はよくあることで、この姿からだんだん変化成長し、スムーズに切り替えることができるようになるのです。

スムーズに変化成長させるために、私たち大人ができることは何でしょう？

それは、「早くしなさい」「がんばりなさい」等の、急がせたり、やらせようとする叱咤激励の言葉よりも、生活環境を整えてあげましょう。【生活環境】というとあまりに広範囲のことになりますね。焦点を絞って、まずは【基本的な生活習慣】（睡眠・食事・排泄・衣服の着脱・清潔）が身に付くようにしてあげなければなりません。中でも幼い時から大切にされてきた早寝早起き、“規則正しい生活リズム”です。年齢が幼ければ幼いほど気を付けてあげなければ、次の日に影響が表れやすいですので注意してあげてください。

5月16日（火）から年少児も給食が始まり、18日の木曜日からはお弁当が、そして次の週からは金曜も給食日となり、週3回が午後保育となります。年少児にとっても年中・年長児にとっても、余計な負担を負わせたくないの、降園時間を少しずらして、年少児は保護者の方にお迎えをお願いすることにしています。ご協力よろしくお祈いします。

また、これからどんどん暑くなってきます。お家の方の顔を見るなり、ぐずったり困らせたりする姿があるかもしれませんが、そのような姿はある程度当たり前のこととしてうまく対応してあげてほしいと思います。

我慢させること、我慢させないでいいこと。

やらせること、やらせないでいいこと。

待たせること、待たせないでいいこと。

子育てしていると、瞬時に両端の【選択を迫られる時】がよくあると思うのですが、そんな時の判断は、案外こだわることもなく【流れてしまいがち】ではないでしょうか。その時の対応こそが、【しつけ】を問われる瞬間ですよ。

子どものことを考える時、親は不安になったり、迷ったり、悩んだり、心を痛めることが多いです。そんな時、答えは育児書の中にはないと私は思っています。答えはどこにあるのか？ 私は子どもの中にあると思っています。どうしたらいいのか、子どもの対応に困った時には、子どもの表情や姿や声や行動などに、問題解決に繋がるヒントが必ずあるはず。真っ白な気持ちで、じっくり、子どもを見つめてみましょう。

私たちも同じです。子どもたちと関わる瞬間瞬間の対応が、言葉が、表情が、自分の子ども観や価値観が問われているものと心しています。